

民俗文化

第35号 近畿大学民俗学研究所

2023-12



民俗文化

第三十五号

口絵写真

高野山麓の榎（カヤノキ）を
めぐる民俗

写真・キャプション：藤井 弘章

1: 久保家のカヤ ▶
(かつらぎ町花園梁瀬、
2022年9月2日)



◀ 2: 大久保家のカヤ
(有田川町下湯川、
2022年6月23日)



3: 中谷家のヒダリマキガヤ ▶
(紀美野町毛原下、
2022年9月13日)



◀ 4：カヤの実
(紀美野町中田の西浦家、
2022年9月30日)

5：外の皮が取れたカヤの実 ▶
(有田川町下湯川の久保家、
2022年9月26日)



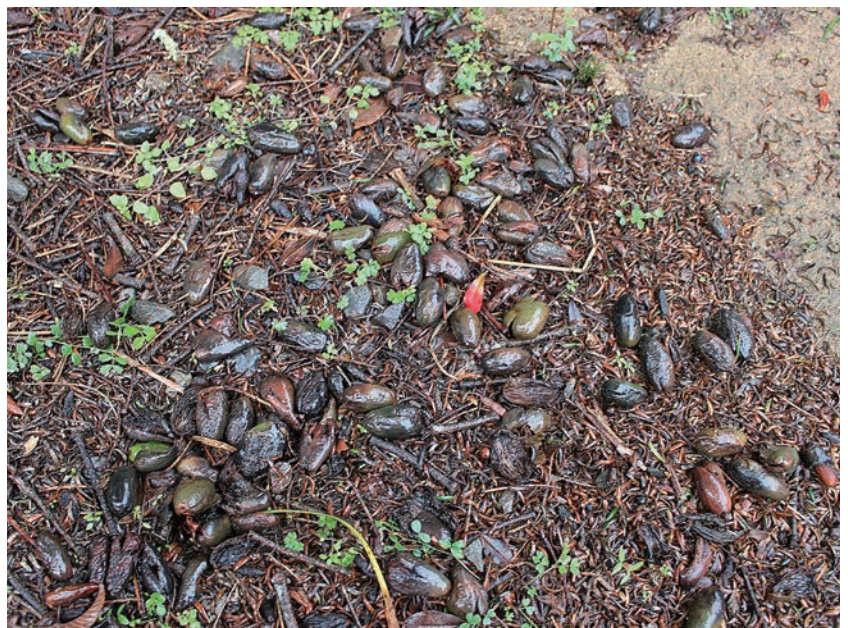
◀ 6：外の皮を剥いたカヤの実
(紀美野町勝谷の善福寺、
2015年8月12日)

7: ヒダリマキガヤの実 ▶
(紀美野町中田の西浦家、
2022年9月30日)



◀ 8: ヒダリマキガヤの実
(紀美野町谷の橋戸家、
2022年9月15日)

9: 落ちて黒くなった榧の実 ▶
(有田川町杉野原の松浦金三家、
2022年12月22日)





◀ 10：ヒダリマキガヤの実か
(有田川町杉野原の松浦家、
2022年9月2日)



11：イヌガヤ ▶
(かつらぎ町志賀、
2023年8月28日)



◀ 12：榎の木神社（下）
(かつらぎ町山崎、
2023年1月16日)

13：上鞆淵の日高から
林垣内方面を望む ▶
(紀の川市上鞆淵、
2023年2月20日)



◀ 14：毛原下から
毛原中方面を望む
(紀美野町毛原地区、
2022年9月13日)

15：滝ノ川から毛原下の
石ヶ峰を望む ▶
(紀美野町毛原地区、
2022年11月4日)





◀ 16：滝ノ川から谷を望む
(紀美野町国吉地区、
2022年11月4日)



17：有田川町の雪景色 ▶
(有田川町沼、
2022年12月19日)



◀ 18：福岡家の榎
(橋本市須河、
2023年11月2日)

19：栢木家の榎 ▶
(橋本市賢堂、2023年3月13日)



◀ 20：松岡家のヒダリマキガヤ
(橋本市清水、2023年9月5日)

21：岡本家の榎 ▶
(橋本市西畑、2023年9月5日)





◀ 22：宝蔵寺の榎
(橋本市西畑、2023年9月5日)

23：宝蔵院の榎
(庫裏の前にある榎、天誅組によって
焼かれたあとが残っている) ▶
(高野町東富貴、2023年9月5日)



◀ 24：町石道の榎
(高野町の矢立から大門の間、
2023年3月31日)

25：堀越観音の榎 ▶
(かつらぎ町東谷、
2023年8月24日)



◀ 26：極楽寺の榎
(かつらぎ町移、
2023年8月28日)

27：上天野の榎 ▶
(かつらぎ町上天野、
2023年1月16日)





◀ 28：北家の榎
(かつらぎ町下天野、
2023年1月16日)

29：28に同じ ▶



◀ 30：山中家の榎
(かつらぎ町下天野、
2023年1月16日)

31：大家家の榎 ▶
(かつらぎ町御所、
2023年8月28日)



◀ 32：山添家の榎
(かつらぎ町日高、
2023年8月28日)

33：もと南家の榎（家の背後） ▶
(かつらぎ町志賀、
2023年8月28日)





▲ 34：久保家の榎
(かつらぎ町花園梁瀬、2022年9月2日)



◀ 35：潰瀧家の榎
(紀の川市重行、
2023年8月28日)

36：上鞆淵（清川）の共同墓地の榿 ▶
（紀の川市上鞆淵、2023年2月20日）



◀ 37：前東家の榿
（紀の川市上鞆淵、
2023年2月20日）

38：土居家の榿跡
（水田の左下に榿があった） ▶
（紀の川市中鞆淵、
1999年8月13日）





◀ 39：戎谷家のヒダリマキガヤ
(紀美野町毛原上、2022年9月13日)



40：森谷家の樫 ▶
(紀美野町毛原上、2022年6月1日)



◀ 41：井上家の雌雄の樫
(紀美野町毛原宮、
2022年10月31日)

42：宗和家のヒダリマキガヤ ▶
(紀美野町毛原中、
2022年11月7日)



◀ 43：神崎家の榧
(貴志川対岸の畑の端)
(紀美野町毛原中、
1986年、神崎博介氏提供)

44：伐採した榧 ▶
(43に同じ)





◀ 45：中谷家背後の
ヒダリマキガヤと棕櫚畑
(紀美野町毛原下、
2022年9月13日)



▶ 46：西峠家のヒダリマキガヤ ▶
(紀美野町毛原下、
2022年11月7日)



◀ 47：大家家の榎
(紀美野町毛原下、2022年10月31日)

48：上中家の榎 ▶
(紀美野町滝ノ川、
2022年11月11日)



◀ 49：坂家のヒダリマキガヤ
(紀美野町谷、2022年10月14日)



50：上南家のヒダリマキガヤ ▶
(紀美野町谷、2022年6月1日)



◀ 51：橋戸家のヒダリマキガヤ
(紀美野町谷、2022年9月15日)



52：伐採前の前田家の樫 ▶
(2015年、西浦史雄氏撮影)



◀ 53：峯尾家のヒダリマキガヤ
(紀美野町松ヶ峰、
2022年9月15日)

54：中谷家の榎
(紀美野町箕六、2022年12月9日) ▶



◀ 55：中谷家の榎
(54に同じ)



56：善福寺のカヤ
(紀美野町勝谷、2015年8月12日) ▶



◀ 57：伊南家の榎
(紀美野町東野、2023年1月4日)

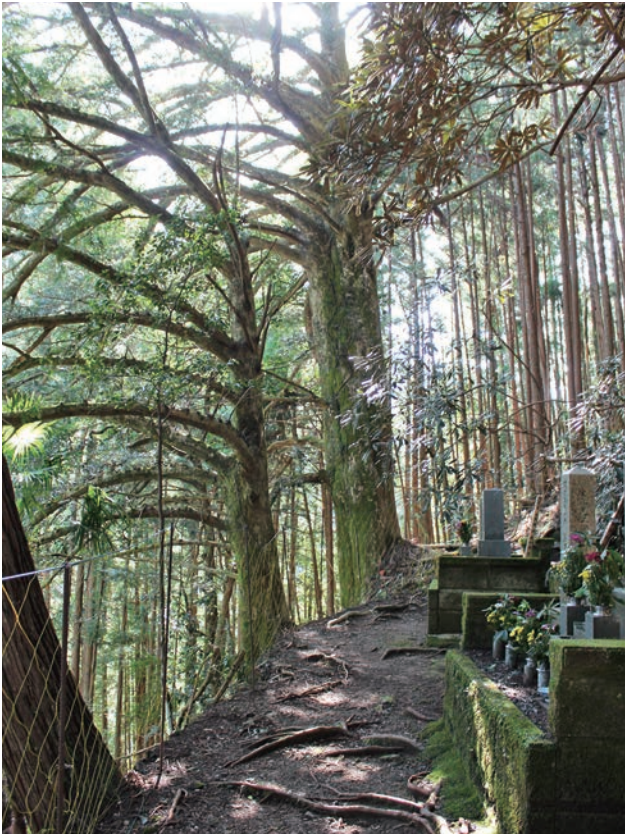


58：西浦家の榎 ▶
(紀美野町中田、2022年9月30日)



◀ 59：西浦家のヒダリマキガヤ
(58に同じ)

60：松浦金三家の榎
（有田川町杉野原、2022年12月22日）



61：藤田家の墓地の榎
（有田川町下湯川、2022年9月26日）



62：峰家の榎
（有田川町下湯川、
2022年9月26日）



◀ 63：下湯川（多井）の榎
（有田川町下湯川、2022年9月26日）

64：三田の榎 ▶
（有田川町三田、
2023年2月27日）



◀ 65：前田家の榎
（有田川町宮川、2023年2月27日）

66：片田家の榎 ▶
(有田川町沼、
2022年12月19日)



◀ 67：松田家の榎
(有田川町沼、2022年12月19日)

68：雪をかぶった榎の枝 ▶
(67に同じ)





◀ 69：谷口家の榎
(有田川町楠本、
2023年5月6日)

70：神崎家の榎 ▶
(榎は家の右側に2本ある、
有田川町日物川、
2023年1月19日)



◀ 71：田中家の榎
(有田川町北野川、
2022年5月16日)

72：中原の榧 ▶
(有田川町中原、
2022年8月14日)



◀ 73：灰と合わせている状態
(紀美野町滝ノ川、
2022年11月4日)

74：あくを抜いて ▶
保管している榧の実
(かつらぎ町花園梁瀬、
2022年9月2日)





◀ 75：炒った樫の実
(紀美野町毛原下、2022年11月7日)

76：炒ってから殻を割った状態 ▶
(筆者自作、2022年10月2日)



◀ 77：カヤカバシ
(西浦史雄氏調理、2022年10月15日)

78：浦野家の搾り機 ▶
(和歌山市立子ども科学館提供)



◀ 79：浦野家の唐臼
(紀美野町鎌滝、
2022年9月22日)

80：尾上家の搾り機 ▶
(紀美野町毛原下、
2022年9月13日)





◀ 81：尾上家の搗き臼
(80に同じ)

82：榧油 ▶
(紀美野町毛原上の森谷家、2022年6月1日)



◀ 83：県外で搾油した榧油
(有田川町下湯川の久保家、
2022年6月23日)

84：鏡餅の周りに置かれた榎 ▶
(高野町大滝の西家、
2010年1月3日)



◀ 85：ツクリゾメ
(紀美野町滝ノ川の東平家、
2013年1月8日)

86：キリゾメ ▶
(紀美野町滝ノ川の東平家、
2013年1月8日)





◀ 87：盆に供えられた櫃
（紀美野町滝ノ川の東平家、
2023年8月14日）

88：薬師堂の護摩祈禱の供物 ▶
（九度山町椎出、
2022年1月5日、
前滝悟氏提供）



◀ 89：櫃の縁板
（紀美野町滝ノ川の東平家、
2022年11月4日）

90：櫃の腰板 ▶
(紀の川市上鞆淵の向竹家、
2022年12月12日)



◀ 91：櫃の部材
(九度山町椎出の谷口家、
2023年3月13日)

92：櫃の将棋盤 ▶
(紀美野町谷の西上家、
2022年10月3日)





◀ 93：美野家の樫と蜜蜂の巣箱
(紀美野町毛原下、
2022年10月31日)



94：前西家の樫と蜜蜂の巣箱 ▶
(紀美野町津川、
2022年11月11日)



◀ 95：キノミノリ
(2022年4月27日)

①		②
③	④	
⑤		⑥

表紙

- ① (上段左) 久保家のカヤ (和歌山県かつらぎ町花園梁瀬、2022年9月2日、藤井撮影)
- ② (上段右) ヒダリマキガヤの実 (和歌山県紀美野町谷の橋戸家、2022年9月15日、藤井撮影)
- ③ (中段左) 榧油 (和歌山県紀美野町毛原上の森谷家、2022年6月1日、藤井撮影)
- ④ (中段右) 浦野家の搾り機 (和歌山県紀美野町鎌滝、和歌山市立子ども科学館提供)
- ⑤ (下段左) 鏡餅の周りに置かれた榧 (和歌山県高野町大滝の西家、2010年1月3日、藤井撮影)
- ⑥ (下段右) 美野家の榧と蜜蜂の巣箱 (和歌山県紀美野町毛原下、2022年10月31日、藤井撮影)

表紙

口絵写真

高野山麓の榎（カヤノキ）をめぐる民俗

（写真・キャプション）藤井弘章

目次

近畿の民俗・文化

高野山麓の榎（カヤノキ）をめぐる民俗

藤井弘章 1

北陸の民俗・文化

戦国期の加賀・越前国境域における朝倉氏の軍事行動と築城

—越前国神宮寺城を中心に—

新谷和之 115

芸娼妓紹介人の収益構造をめぐる一考察

人見佐知子 137

史料紹介

高田城下町絵図（近畿大学中央図書館蔵）

二〇二二年度基礎ゼミ受講生・

新谷和之 151

湛海書状（近畿大学中央図書館蔵）

二〇二二年度演習ⅠA受講生・

新谷和之 155

書評と紹介

野本寛一著『麦の記憶―民俗学のまなざしから』

辻貴志 157

活動記録

民俗学研究所第三三回公開講演会（講演要旨）「平野屋新田会所跡の歴史と保存・活用」

佐々木 拓哉

161

研究ノート

本邦主要寺院の龍について

橋口 尚武

165

東南アジアの民俗・文化

フィリピン・セブ島におけるバジャウの魚名に関するフィールドレポート

辻 貴志

196(9)

嘉定城通志 (Gia Định thành thông chí) に記載されたエビ・カニ類の同定

鈴木 伸二
小菅 丈治

204(1)

執筆者紹介

205

投稿規程

207

編集後記

208

近畿の民俗・文化

北陸の民俗・文化

史料紹介

書評と紹介

研究ノート

東南アジアの民俗・文化

執筆者紹介（五十音順）

小菅丈治（こすげ たけはる）

東京都生まれ。日越大学非常勤講師・国際マンガロープ生態系協会主任研究員。『カニのつぶやき―海で見つけた共生の物語』（岩波書店、二〇一四年）、『海を歩けば―アジアの生物多様性に魅せられて』（沖縄タイムス出版社、二〇一五年）ほか。

佐々木拓哉（ささき たくや）

一九八五年、兵庫県生まれ。「大東の近代化遺産と戦争遺跡」（『大阪春秋』一六〇号、二〇一五年）、「近世から現代の飯盛城跡の変遷」（『飯盛城跡総合調査報告書』大東市教育委員会・四條畷市教育委員会、二〇二〇年）、「絵図からみた深野池の新田開発と周辺環境の変化」（『平野屋新田会所跡総合調査報告書』大東市、二〇一三年）など。

新谷和之（しんや かずゆき）

一九八五年、和歌山県生まれ。近畿大学文学芸学部准教授、同民俗学研究所員。『戦国期六角氏権力と地域社会』（思文閣出版、二〇一八年）、『近江六角氏』（編著、戎光祥出版、二〇一五年）、『中世後期の守護と文書システム』（共著、思文閣出版、二〇二二年）、「城郭遺構の保存と活用」（『歴史学研究』一〇〇一、二〇二〇年）など。

鈴木伸二（すずき しんじ）

大阪府に生まれる。近畿大学総合社会学部准教授・同民俗学研究所員。「嘉定城通志 (Gia Dinh thành thông chí) に記載された貝類の同定」（『民俗文化』(34)二〇二二年）、「インドシナにおける科学の始動：ドゥメール在任期（一八九七～一九〇二年）のギョーム・キャピュを中心に」（『史学雑誌』(131-4)二〇二二年）、「トンキンの日本人娼館：トンキン理事長官府第九号機密書簡をめぐって」（『民俗文化』(33)二〇二二年）ほか。

辻貴志（つじ たかし）

大阪府生まれ。近畿大学経営学部・文学部非常勤講師、佐賀大学大学院農学研究科特定研究員、国立民族学博物館学術資源研究開発センター事務補佐員。Collection and Use of Shipworm *Tamalik* (*Bactronophorus thoracicus*) in Philippine Mangrove Forest. *Aghantao* 29 (二〇一一年) 'Uses of Domestic Water Buffalo Milk in South Sumatra, Indonesia. *IOP Conference Series Earth and Environmental Science* 995(1) (二〇二二年) 共著) 'An Eco-Material Culture Study on Fish Traps in Mekong Basin, the Lao PDR. *Bulletin of National Museum of Ethnology* 47 (1) (二〇二二) 'The Mouse Deer Being a Trickster in Philippine Folktales. *The Southeastern Philippines Journal of Research and Development* 27 (2) (二〇二二) 'ほか。

人見佐知子（ひとみ さちこ）

兵庫県生まれ。近畿大学文学部教員、同民俗学研究所所員。『近代公娼制度の社会的研究』（日本経済評論社、二〇一五年）、『第4次現代歴史学の成果と課題3歴史実践の現在』（共著、績文堂出版、二〇一七年）、〈戦争の子ども〉からオーラル・ヒストリーを考える』（『日本オーラル・ヒストリー研究』一四、二〇一八年）など。

藤井弘章（ふじい ひろあき）

一九六九年、和歌山市生まれ。近畿大学文学部教授、同民俗学研究所所員。『高野町史 民俗編』（共著、高野町、二〇一二年）、『高野山納骨習俗の地域差 —和歌山県北部を中心に—』（『民俗文化』二九、二〇一七年）、『日本の食文化 4 魚と肉』（編著、吉川弘文館、二〇一九年）、『三和インセクテイスайд 50年のあゆみ』（編著、三和インセクテイスайд、二〇一九年）、『和歌山県における櫛の民俗 紀美野町の栽培・採取を中心に—』（『民俗文化』三一、二〇一九年）など。

民俗文化 投稿規程

(令和五年十二月)

- 一、投稿できる者は、近畿大学民俗学研究所々員および同所員より推薦を受けた者とする。
- 二、受け付けた原稿は複数の査読者による査読を受ける。その結果にもとづき、掲載の可否を決定する。論部の内容に不備がある場合には、編集委員から投稿者に修正を求める。
- 三、刷り上がりは、A四判・縦書き(必要な場合は横書きも可)、一ページあたり三十五字×十九行×二段を原則とする。原稿執筆にあたっては、できる限り、刷り上がりに合わせて字数設定を行うものとする。
- 四、投稿の締切日は、毎年五月末日とする。原稿は、原則として、電子記憶媒体(CD等)を添えて編集委員に提出する。
- 五、別刷は五十部を無料とする。
- 六、刊行後の報文(論文、研究ノート、書評、写真及び写真解説等)は、その著作権が近畿大学民俗学研究所に帰属する。ただし、著作者本人による転載等をさまたげるものではない。
- 七、刊行後の報文(論文、研究ノート、書評、写真及び写真解説等)は、冊子体以外の媒体(近畿大学学術情報リポジトリ等)で公開されることを承諾のうえ投稿すること。ただし、電子媒体での公開に際しては、著作者本人もしくは話者の意向等により、一部または全部を非公開とすることがある。

近畿大学民俗学研究所

編集後記

令和五年（二〇二三）度は、コロナウイルス感染症が5類感染症移行したことにともない、大学においても、落ち着いた教育・研究がおこなわれるようになってきた。

本号には、所員をはじめ、関係者の方々が調査してきた成果として、多数の論考・史料紹介などを寄稿いただいている。今回も前号に引き続き、近畿・北陸・東南アジアという地域ごとに分類して論考を並べている。いずれも、それぞれの執筆者が長年調査をおこなっている地域を中心にした論考である。口絵写真には、藤井所員の論考の中で取り上げている高野山麓の榎に関する写真をまとめた。知られざる巨木の写真をながめると、高野山麓の歴史・民俗の厚みを体感することができそうである。

史料紹介としては、近畿大学中央図書館所蔵となった文書について、学生とともに取り組んだ成果が公表されている。また、昨年一月に、大東市の佐々木拓哉氏にお話しいただいた公開講演会の要旨も掲載している。大東市と民俗学研究所の連携協定による調査は継続して実施しているが、今回は連携協定を結ぶ以前から大東市が取り組んでこられた新田開所の保存・調査に関する内容となっている。この講演会は対面とオンラインのハイブリッド形式で実施したものであった。こうした講演会の実施形態の記録自体も、将来には資料となるであろう。

（H・F）

民 俗 文 化 第 35 号

令和 5 年 12 月 21 日印刷
令和 5 年 12 月 21 日発行

編集・発行者 近畿大学民俗学研究所

〒577-8502
東大阪市小若江3丁目4番1号
電 話 (06) 6721-2332



近畿大学

KINDAI UNIVERSITY